がんばろう日本！　がんばれ東北！

なんでもインフォ 2012.9



発　行　株式会社 昭和土木設計
岩手県矢巾町流通センター南４丁目１－23
E-mail　suzuki@showacd.co.jp
Tel 019-638-6834　Fax 019-638-6389

～東日本大震災とがれき処理について～

はじめに

昨年の東日本大震災が発生して、１年５ヶ月が経過しました。津波で破壊された家々や家財道具はがれきと化し、その量は岩手、宮城で 2000 万トンを超すと言われています。この膨大ながれきをどう処理するかが大きな課題となっています。
今月号のインフォでは現在のがれき処理状況とがれきを活用した復興プロジェクトについて紹介します。

現在のがれき処理状況

現在、がれき、残された建物の解体作業も進み震災当初に比べると、町にはほとんどがれきは見られなくなりました。一方でがれきの集積場所の確保や、最終処分がうまく進まず、復興を遅らせるのではないかと懸念されています。平地が少ない三陸の被災地にとって、集積場所の不足は深刻です。集められたがれきの高さは、自然発火を防ぐため 5m以下に制限されていますが、集積場所が足らず 20 メートルの高さまでつみ上がっている場所があるのが現状です。環境省によると、2012 年 2 月 21 日時点で最終処分されたのは全体のわずか 5%であり、阪神淡路大震災と同じく 3 年間で処理を終了しようという目標の達成に黄色信号がともっています。



鵜住居小学校跡地

がれきの広域処理について

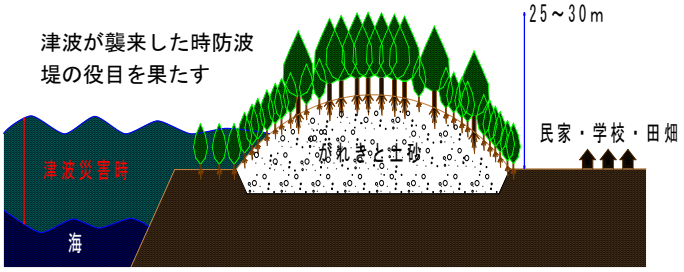
岩手、宮城の両県では処理施設不足によりがれき処理が思うように進んでおらず、その量は岩手県で、1 年間に処分されている廃棄物の約 12 年分、宮城県では約 14 年分に達しています。（全国の廃棄物処理施設で被災地の処理しきれない廃棄物を処理してもらうことを広域処理といいます）。過去の例を見てみると阪神淡路大震災の際には、兵庫県で発生した可燃性の災害廃棄物のうち約 14%が県外で焼却され埋め立てられました。また、新潟中越沖地震では発生した数十トンの災害廃棄物が川崎市で処分されました。しかし今回の東日本大震災では放射性物質が、がれきに含まれるため、がれき処理の障害となっています。環境省は福島県内の災害廃棄物は県内処理を原則とし、岩手・宮城両県のがれき処理を広く受け入れてくれるよう他県に要請しています。処理の過程で健康に影響を及ぼさず、安全が確保されたものだけが対象となっており、他県の理解と協力が望まれています。

空間放射線量（地上1mでの測定）

県名		市区町村名	空間線量率 単位：マイクロシーベルト/時間
東北沿岸部	岩手県	久慈市	0.06
		野田村	0.06
		宮古市	0.10
		陸前高田市	0.05
	宮城県	気仙沼市	0.10
		石巻市	0.09
		名取市	0.08
関東圏	茨城県	水戸市	0.09
	栃木県	宇都宮市	0.11
	群馬県	前橋市	0.09
	埼玉県	さいたま市	0.05
	東京都	新宿区	0.07
その他地域	愛知県	名古屋市	0.04
	大阪府	大阪市	0.06

がれきを活かす森の長城プロジェクト

震災がれきを埋め立てるだけではなく、埋めたがれきの上にマウンド（植樹地）をつくり、木を植え、防潮堤にしようという取り組みが「がれきを活かす森の長城プロジェクト」です。震災によってでたがれきの分解不能なもの以外を有能な地球資源として活用します。それにより運搬、焼却などのコストを省け燃やさないので環境面にも良いです。また将来再び津波が襲来しても森は津波のエネルギーを吸収します。引き波に対してはフェンスの役割も果たします。緑の防波堤になるだけではなく鎮魂の場にもなり、後世の人々が緑を満喫できる自然公園にもなります。



おわりに

改めてがれき処理の現状を知り、強く深刻な問題だと感じました。復興にあたってがれき処理は必ず解決しなければならない問題です。がれきのより安全な処理方法の策定、活用方法の実現化が強く望まれます。

参考文献：環境省ホームページ
森の長城プロジェクトホームページほか

株式会社 昭和土木設計の紹介
弊社は、道路・河川・橋梁等の計画・設計、GIS、IT ソリューション等の業務を行っております。
”なんでもインフォ“のバックナンバーについては http://www.showacd.co.jp をご覧ください。

作成者：コンサルタント事業部